

## 第5回三木市小中一貫教育推進協議会 次第

日時 令和4年12月14日(水)  
午後7時から  
場所 三木市役所5階大会議室

### 1 開会

### 2 議事

(1) 子どもにつけたい力について

(2) 施設一体型小中一貫校の導入について

(3) 施設整備着手の方向性

(4) 学校施設の将来像について

### 3 まとめ

### 4 閉会

10月19日(水)午後7時から、第4回小中一貫教育推進協議会を開催しました。今回は、小中一貫教育実践推進校(別所中学校区・吉川中学校区)から取組状況の報告を受けた後、「集約する学校数」「吉川の学校の在り方」をテーマに意見交換を行いました。

## 1 実践推進校からの報告

### 【別所中学校区】

- ・教職員、児童生徒の意識を6-3年から9年間に変えていくことが大切と考え、まずはじめに、カリキュラム作成を通じた小・中学校教職員の研修や交流に着手した。
- ・児童生徒の交流機会として、中学生が小学校の縦割り班活動に参加した。中学生は小学生の頑張りを見つけることと同時に自分や仲間の良いところに気づくことをめざした。



別所中・別所小が交流する様子(別所小縦割り班活動)

### 【吉川中学校区】

- ・年間通じ推進委員会3回、合同研修会5回、講師を招聘した夏季合同研修会を実施していく。全国学力・学習状況調査結果の考察や9年間のカリキュラムづくりにも取り組んでいる。
- ・小中の教職員や児童生徒の相互交流を進めるため、運動会等の合同実施を計画していく。まず、今年度は吉川中を会場とし、同日で午前(小学校)、午後(中学校)に分けて実施する。



6年生が中学校の教室で授業体験(吉川中)

## 2 テーマ:集約する学校数

《第3回で出された以下の意見をもとに意見交換が始まりました。》

現在の6つの中学校区の単位で、これまでの実践をいかながら、小中一貫教育(ソフト面)を推進しており、その延長線上に施設一体型の学校への移行を見据えるのが現実的である。

## 《委員の意見》

※ 下線部は、「考慮すべき要件(視点)」に関連する内容を示しています。

- ・今6中学校区でしっかりと小中一貫教育に取り組み始めた。今の段階で学校をなくしていくというのは、もったいない。先生方の取組を尊重して現在の校区で考えることは大切な視点だ。5校イメージにこだわる必要はなく、一旦6校を想定して考えたい。
- ・今の中学校区で目指すということで良いが、5や6という数字だけがひとり歩きし、足かせになってはいけない。将来検討する時に、柔軟に(学校数などについて)対応できるように、この協議会では、考慮すべき要件(視点)を出しておく必要がある。
- ・5~6年先の子ども人口の予測はできるが、その間に全部の学校は建たない。児童生徒数の推移に注意を払う必要がある。地域開発による子育て世帯の変化を含めて注視する。
- ・統合を経験し、あらためて学校が地域に支えられていることを実感している。地域がどのような学校になってほしいと考えているかを知っておく必要がある。
- ・施設一体型は効果があるが、まずは中学校区毎に教育面(ソフト面)をしっかりと進め、その先に施設一体型への移行を考える流れが大切である。





- ・全校を一度に進められないので、モデル校で成果検証した上で進めるのが良い。
- ・私の住んでいる校区は、1歳～6歳の子は20人ほどしかいないと聞いている。モデル校の様子を見て、ゆっくり進めるのでは間に合わない。中学校でいきなり大規模になるというギャップを感じさせたくない。ある程度の規模で学ばせてあげたい。
- ・モデル校を検討しつつも、状況変化をいち早くキャッチし、慎重かつ急いで整備を進める必要がある。
- ・高校の再編の話があるが、近隣の高校くらいの規模で学校用地が出てくるとすると、そこで（施設一体型の）小中学校を運営できると良いのではないか。
- ・タブレットが導入され、授業がオンラインで行われる状況になった。近い未来に午前中だけ登校や週替わりで通いたい学校を選択するなど、学校施設の在り方やニーズが変化するかもしれない。

### 3 テーマ：吉川地域の学校の在り方

《これまでに総合教育会議で議論された以下の内容について共有した後、意見交換が始まりました。》

- ・吉川を中心とする地域には、地域性や通学上の課題から小規模となったとしても学校を残す。（平成30年12月）
  - ・吉川に第1校目となる施設一体型小中一貫校を建設し、モデル校としたい。（令和3年7月）
- 他の中学校区においても、学校同士が離れていても、小中一貫教育を推進する。

※「総合教育会議」は、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、同じ方向性で連携して三木市の教育行政を進めるため開かれる会議です。

### 《委員の意見》

- ・市の方向性にあるように吉川から始めるという方向性で考えていって良いか？  
良ければ、モデル校として検討するが、他の地域も早く考えていく必要がある。
- ・吉川であれば、公民館の機能を併せもつような、地域住民の方が気兼ねなく居られるスペースを学校内に設けてはどうか。場所がなければ校舎を上にも伸ばさないといけない。
- ・施設の複合化などが他の地域でも行われている。事務局に情報収集をお願いする。
- ・小規模の学校も良さがあるが、ある程度の人数で子どもはもまれる必要がある。市内の他の地域から通うことができる枠組（小規模特認校）をつくってみてはいかがだろうか。
- ・ICTの進歩もあるので、文部科学省が新たな学校の在り方の制度を出すかもしれない。
- ・吉川の進め方に異論はないが、先に意見があった小規模校は喫緊の課題である。吉川の次の学校をどうしていくのかを迅速かつ慎重に考えなければならない。
- ・まちづくり協議会の部会に学校の代表も所属している。学校の在り方についても話し合いを始めている。学校だけでなく、地域の方にも考えてもらいたい。  
まちづくりとの関連性をもたせて進めて行きたい。



### インフォメーション

- ・本協議会は、第6回まで開催し、これまでの議論をもとに「意見書」を作成します。
  - ・第5回の協議会は、12月14日に行う予定です。
- 場所：三木市役所5階 大会議室

- お問い合わせ  
三木市教育委員会学校再編室  
電話 0794-89-2400
- ・ホームページも  
ご覧ください。



ホームページURL  
<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html>  
又は、「三木市 学校再編」で検索

## 意見書 骨子案

R4.12.14

## 1 小中一貫教育の推進及び子どもにつけたい力

協議会では、地域、保護者、学校それぞれの立場からの意見を集約し、子どもにつけたい具体的な力を表1のように整理した。

ここに示した「子どもにつけたい力」は、すべての子どもたちに、学校教育、家庭教育、社会教育をはじめ、子どもたちを取り巻くあらゆる環境や機会を通じて育んでいくことを強く願うものである。

小学校と中学校が垣根を作らず、協力して子どもたちを支え導く小中一貫教育は、小1から中3まで9年間で、学力や体験を計画的に積み上げることができるよう、「子どもにつけたい力」をより確実に伸ばすための非常に効果的な方法であると考えている。

三木市では、令和3年度から全中学校区で小中一貫教育に着手し、令和4年度からは、別所、吉川校区の学校を実践推進校に指定して様々な実践研究を進めている。

各中学校区における取組をさらに発展させ、子どもたちにとってより良い「学び」「見守り体制」「地域とのつながり」を創造していくことが望ましく、現在施設が離れている小中学校間における小中一貫教育をさらに推進していくことに期待する。

表1 参照 別紙



## 2 今後の三木市の学校施設

### (1) 施設一体型小中一貫校の導入について

三木市の学校では、施設が離れている小中学校間において9年間で子どもの学びと育ちを支え導く小中一貫教育を実施しているが、これまでの議論及び視察等の経緯を踏まえ、より高い教育的効果が得られることが期待できる施設一体型の学校施設へと移行していくことが望ましいと考える。

「施設一体型」ならではの2つの効果に着目し、方向性に至った理由等をまとめることとする。

#### ア 同じ空間で9学年が集い、学ぶことで得られる効果

- ①9年間のつながりを持つ学びや異学年の交流を容易につくりだすことができる。
- ②日常的に小・中学校の子どもたちがふれあうことができる。

- ・縦に長い人間関係の中で多様性を受け入れ、協働する資質が身に付く。
- ・異学年が集団でふれあい、活動することを通じて社会性が育まれる。
- ・小学生は上級生に「あこがれ」の気持ちを持ち、中学生は下級生の「良き手本」になろうとする気持ちが芽生える。

#### イ 小中の教職員が常に協働できることで得られる効果

- ①9年間の視点に立ったカリキュラムの編成や授業の創造・実践が行える。
- ②教職員の乗り入れ授業※等が確実に実施できる。  
※ 例えば、中学校教員が年間を通じて小学校の教科を指導するような指導体制
- ③教職員が協力して子どもの悩みや課題に寄り添い、支援できる。

- ・小中の学びがつながり、確実に学習の積み上げが行われ、より高いゴールを目指せる。
- ・子どもの興味関心を高め、学習内容の理解促進や学習面のつまづきを支援することができ、学力の向上につながる。
- ・系統的に様々な体験活動を実施することで、経験に基づく生きる力が身につく。
- ・相談体制が充実し、安心して学び、安心して過ごせる。

## (2) 施設整備着手の方向性

新たな市の大きな施策であるため、施設の整備を進める際には、必要な校数をモデル校として設置（新規建設、一部増築、既存施設活用など）し、その効果や課題を検証したうえでその後の取組を進めることが望ましい。

モデル校を設置するのであれば、以下に挙げる理由から、まずは吉川に設置することが良いと考える。

ただし、吉川については、少子化がさらに進んでいくことが予想されるため、新しい学校施設を設置する際には、並行して、まちづくりをはじめとした様々な要素について検討を加えることが必要となる。

以下に理由及び留意すべき課題を附帯意見として附すこととする。

### 【吉川をモデル校とする理由】

令和3年、4年の2か年で吉川にある4つの小学校が統合し、吉川小学校がスタートした。大部分の児童がバスで通学しており、最も遠い児童は、30分程度の時間をかけてバスで通学している。

過去の総合教育会議において、主に地理的な条件や通学の課題から、「小規模になったとしても吉川に学校を残す」ということが示されており、理解できるところである。

また、吉川小学校は、4つの小学校の統合を経ても、多くの学年で単学級となる小規模の学校であることには変わりがない。そのため、同一の施設内で小学校と中学校の児童生徒が学び、多くのふれあいが生まれる施設一体型の学校施設へのできるだけ早い移行をするべきだと考える。

### 【附帯意見】

#### ① 着手の手順

着手に際しては丁寧な説明や検討を要するが、子どもの人口が減っているため、できるだけ早く着手する。

#### ② 小規模化への対応

子どもの人口推移への配慮に加え、三木市内の他の校区からでも通学を可能とする「特認校制度」等の施策を検討する必要がある。

#### ③ 地域とのつながり

学校内に地域住民の方とふれあえるスペースを設ける。先進地域では、公共施設との複合化が進んでいる。とりわけ、公民館機能の集約などの事例が多くあり、検討する必要がある。

教育環境の整備については、まちづくりとの関連性を持たせることが必要である。

### (3) 学校施設の将来像

三木市では、将来的な学校の姿として施設一体型の学校施設への移行を目指している。以前には5校のイメージ図が示されていたが、社会の劇的な変化が予想される中で、設置すべき学校数を固定して考えるのではなく、変化に対して柔軟に対応していく必要性があると考えます。

まずは現在の中学校区で行っている小中一貫教育を根付かせることが何にもまして大切であるため、一層推進していく必要がある。

以下に取組を進めるうえで留意すべき課題を附帯意見として附すこととする。

#### 【附帯意見】

##### ① 子ども人口の推移（減少状況）

定期的な子ども人口推計を行い、各地域における学校の在り方を検討する。

##### ② 地域と学校の関係性

コミュニティ・スクール等を核とした地域との関わりの深化や社会教育とのつながりを考慮する。

##### ③ 学校の役割変化

ICT環境をはじめ、社会の大きな変化が予想されており、「学校」のもつ根本的な役割が変化していく可能性があるため、学校の在り方を勘案し、学校施設や学校数について柔軟に対応する。

##### ④ 迅速な検討及び着手

小規模化が進んでいる学校があり、対応は喫緊の課題である。各中学校区の状況の変化を早く掴み、慎重かつ早急に対応を検討する。

表1 子どもにつけたい力

※グラウンドデザイン	つけたい力	意見交換内容委員の思いや意見
① 未来を創る学力	つけたい力 主体性、思考力 思考力、判断力 取捨選択する力 情報を活用する力	○タブレットで正解はすぐ手に入るが、自分で吟味して身に付けてほしい。 ○大人がいらないということではなくて、有象無象にある知識や情報をどのように取捨選択して大人たちは意思決定していくのか、自分の考えを作っているのかという部分では絶対に人生経験というのが必要である。これこそ大人の役割である。今後の学校教育・家庭教育において重要なのは大人がそういうことをどう考えているのか、思考力・判断力というものがこれまでに求められてくると思う。
② 共に生きる力	優しさや思いやり 伝える力 (コミュニケーション力) 関わっていく力	○不易と流行があるが、2040年の未来像は、変わってはいけないことが抜けていく。優しさや思いやりを大切にしたい。 ○実際に発する言葉で、しっかり伝える力(コミュニケーション力)を身に付けてほしい。 ○相手を傷つけない方法を学んでほしい。
③ 健やかな心と体	たくましさ、生き抜く力 困難さから立ち直る力 心身をコントロールする力	○未来像に驚いたが、子どもたちはその中で生きていかねばならない。 ○相手を傷つけない方法を学んでほしい。 ○傷つくことを避けてばかりいれば、傷ついた時の対応ができなくなるので、傷つかないことよりも傷ついたら後の対応をどのようににできるか、子ども同士あるいは大人に助けを求める等、根源的な力が子ども達に必要である。
体験的な学び	体験から感じとる心 (力)	○本物に触れ感動してほしい。調べ、ページをめくり、覚え、そして実物に出会い、精神の豊かさを失わないでほしい。

※小中一貫教育グラウンドデザイン・・・三木市の小中一貫教育推進に関する全体構想。地域ならではの体験的な学びを基盤に  
 ①「未来を創る学力」②「共に生きる力」③「健やかな心と体」の3つの力を育成し、三木市の「めざす15歳の姿」の実現をめざしていく。

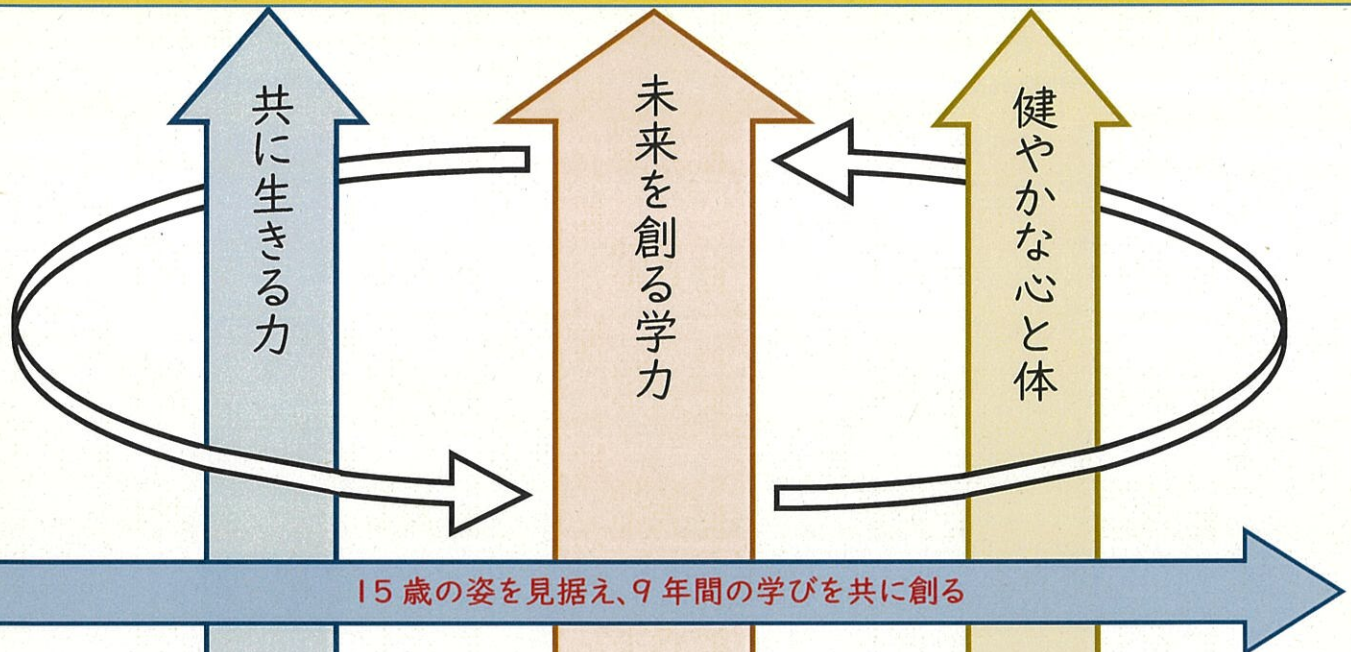


# 三木市小中一貫教育 グランドデザイン

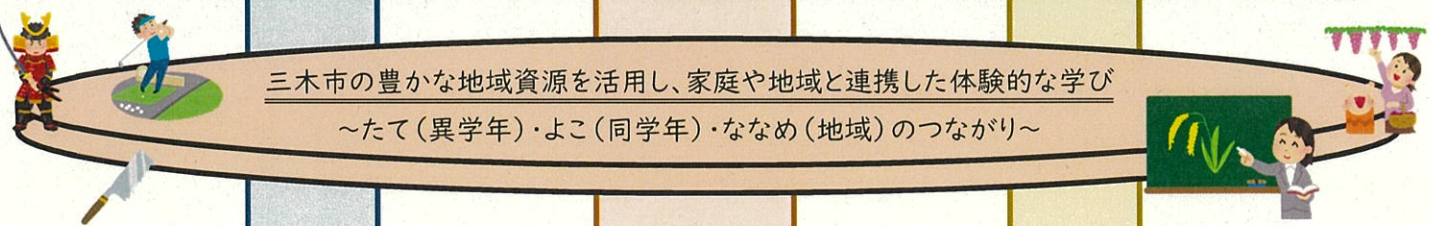
資料4

## 三木市のめざす15歳の姿

自ら考えて行動する子(主体性) 協力し合って成し遂げる子(協働性) 新たな価値を創り出す子(創造力)



1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
9年間の学びをつなぐカリキュラム								
<b>基礎定着期</b> 《きめ細やかな指導で学びと育ちの基礎を培います》 学級担任を中心とした一人一人を見つめるきめ細やかな指導 基礎・基本の反復・定着 学習習慣や基本的な生活習慣の定着				<b>充実期</b> 《夢や目標に向かう自主性を育成します》 複数の教員の目によるつまずきサポート 乗り入れ授業等による学習意欲の向上 中1ギャップ(小中ギャップ)の解消			<b>発展期</b> 《自己実現に向けた個性の伸長を図ります》 専門的かつ多様な関わりによる個に応じた指導の充実	
小学校課程 6年						円滑な	接続	中学校課程 3年
				離れていても「小中一貫」 一貫教育 中学校 小学校				
学級担任制				一部教科担任制			教科担任制	



### 共に生きる力

☆相手を思いやる心と豊かなコミュニケーションで、人と関わりつながっていく力

- 9年間を見通した人権を基盤に据えた教育活動の推進
- 教育活動全体における道徳教育の充実
- 多様性を認める生徒指導の充実
- 多文化共生教育の推進
- 他者と協働する交流活動の推進
- 共助の心を育成する防災教育の充実

### 未来を創る学力

☆自立し、自己実現していくために必要な学びの力

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- カリキュラム・マネジメントの充実
- 基礎学力の定着と活用力・学びに向かう力の育成(個別最適な学びと協働的な学びを実現するICT活用や体験的な学習)
- グローバル人材を育成する教育の推進
- 家庭学習の充実

### 健やかな心と体

☆たくましく生きるための心身の健康や体力

- 自己肯定感や自己決定力を育む体験活動の充実
- 体力・運動能力の向上に向けた体育活動の充実
- 食に関する正しい知識の習得と望ましい食習慣の形成に向けた食育の推進
- 健康で安全な生活を送るための基礎を培う健康教育の充実
- 危険予測・危機回避能力を育成する安全教育の推進

☆は育成する能力、○は具体的な手立ての例を示している。